

## 自転車利用実態定点調査報告(A地点)

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の参考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成30年5月1日～31日

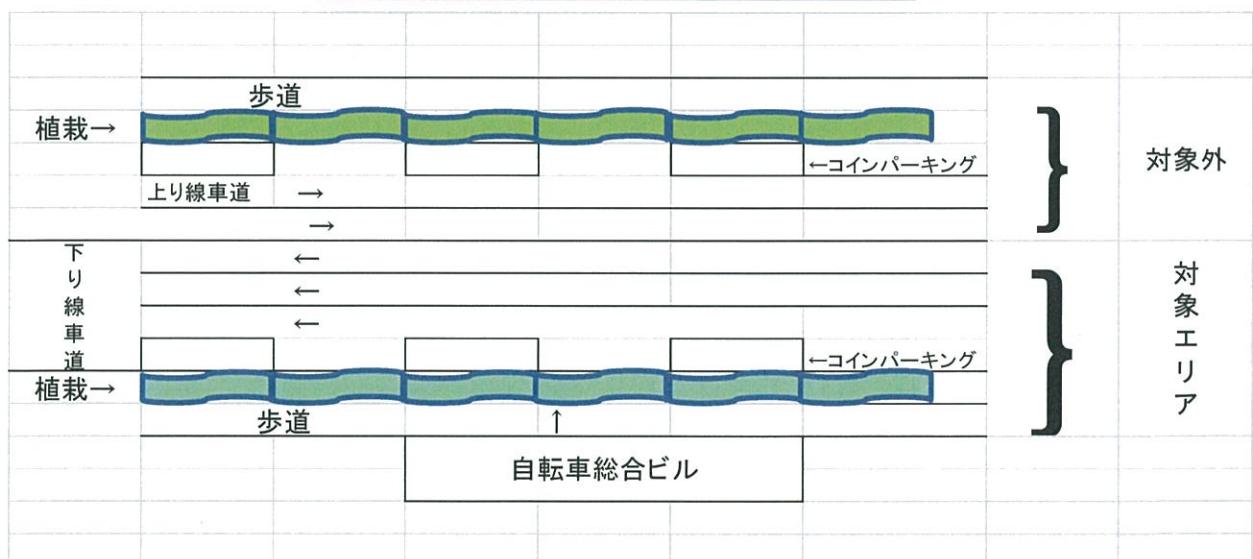
[午前]9:00～10:00 [午後] 14:00～15:00

調査場所 ・ 自転車総合ビル前（目黒駅方面に50m程緩い下り坂）

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り下り3車線[内側1車線駐車帯])

(歩道:幅員5m・植栽1.5m～2mのため、実質通行幅3m～3.5m)

・ 調査対象外(車道線:目黒通り上り2車線[内側1車線駐車帯]及び上り歩道)



調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

調査点番号	走行空間			車種		両走		危険運転行為										
	車道左側	車道右側	歩道中央	歩道	アシスト	電動	原	自転	自転車	その他								
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		
23																		
24																		
25																		
			調査日時 :		平成	年	月	日	曜	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
			天気 :															
			調査時間 :															

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、10~33%と多岐にわたるが、平均すると21%程度である。

依然、歩道を通行する自転車が多く、今回も、全体の約8割を占めている。同一地点(個別データ)においても、午前と午後で異なったデータとなっている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(244件)・ハンドルに荷物(113件)・片手運転(95件/内14件は、携帯電話を使用しながらの運転)・歩道上でのスピードの出しすぎ(68件)・子乗せ後部席に荷物掛け(\*1)(38件)・脇見運転(37件)・過積載(36件)・立ち漕ぎ(25件)・ジグザグ運転(23件)・車道右側走行(16件)等の順となっている。

\*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

## 【総合】

今回は、平成 30 年度第 2 回目の調査となり、前回のデータと様々な点で比較してみた。

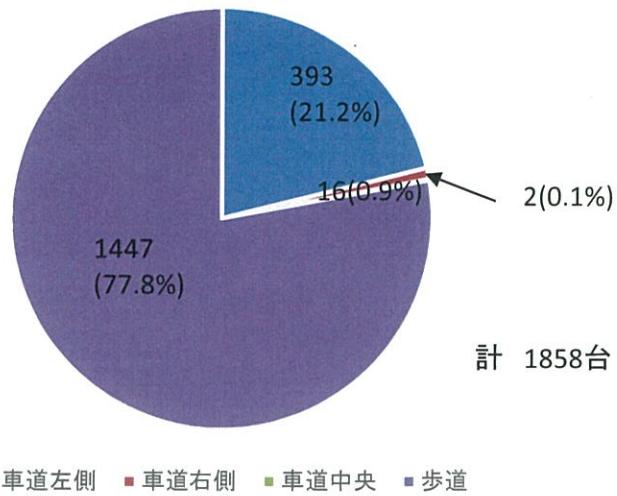
- ・利用者別 今回も、午前が午後の利用者を上回った。
- ・車道左側走行率 今回(21.2%)は、前回(22.9%)と同様の水準である。  
なお、午前(21.0%)は、前回(22.1%)と同様の水準である。  
また、午後(21.3%)は、前回(23.7%)の 9 割の水準である。
- ・子乗せ自転車 今回(20.8%)は、前回(20.2%)と同様の水準である。  
なお、同自転車における同乗者あり(33.9%)の場合でのヘルメット着用率は、87.0%(週平均は、73~93%の範囲で推移)である。  
今回(87.0%)は、前回(77.7%)の 1.1 倍の水準である。
- ・電動自転車 今回(33.2%)は、前回(31.4%)と同様の水準である。
- ・危険運転行為 上位 3 件別では、[肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転] の順である。  
(違反行為を含む) 一方、下位 3 件別では、[立ち漕ぎ・ジグザグ運転・車道右側走行] の順である。  
  
なお、今回も、肩に荷物・ハンドルに荷物だけで、全体(704 件)の 5 割(357 件)を占める形となった。  
(危険防止の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)  
  
また、利用者全体(1858 名)における危険運転行為(違反行為を含み 704 件)の比率は、割合上(\*2)では、34%となっている。

\* 2 実際は、1 名で複数の危険運転行為等を実施している件(80 件)も含まれるため

今回の雨天時のデータは、傘さし運転者(計 3 人)に対し、合羽着用者(計 9 人)で 3 倍であった。

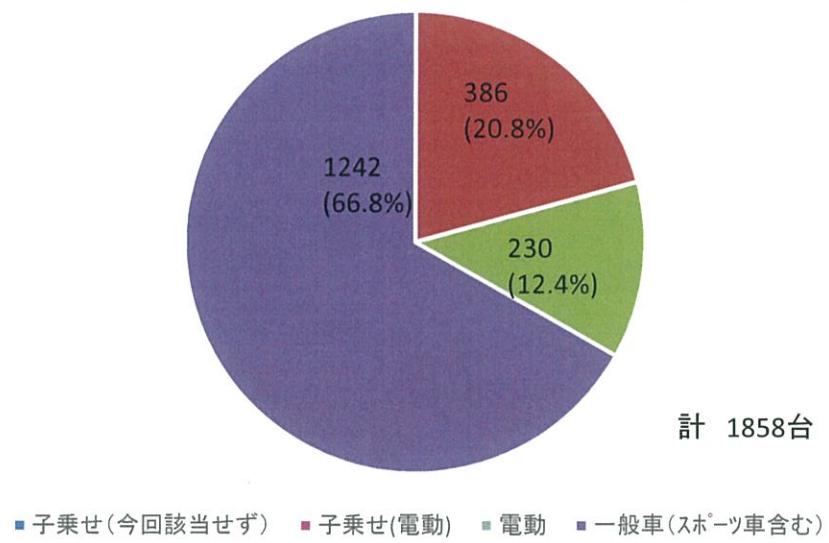
調査期間は、2 日間であった。

## 走行空間



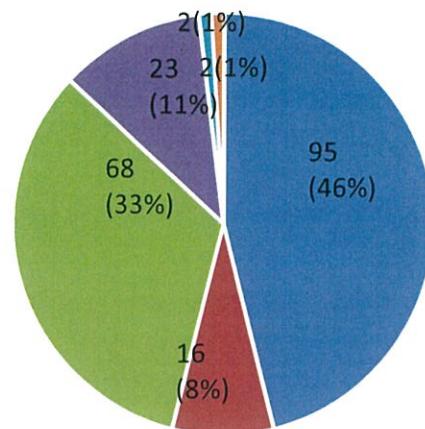
調査期間 5/1~31

## 車種



調査期間 5/1~31

## 違反運転行為



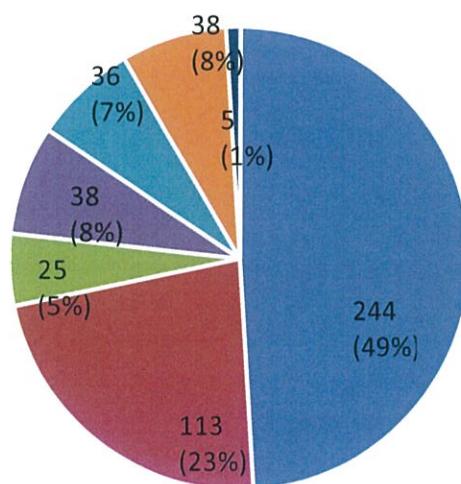
計206件

■ 片手運転 \*1 ■ 車道右側 ■ スピード出し過ぎ ■ ジグザグ運転 ■ 斜め横断 ■ 車道中央

調査期間 5/1～31

\* 1 内14件 携帯電話を使用中の運転

## 危険運転行為



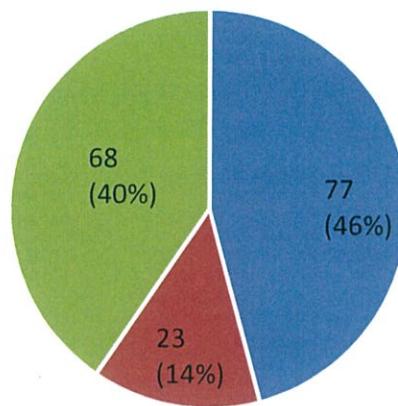
計 498件

■ 肩に荷物 ■ ハンドルに荷物 ■ 立ち漕ぎ \*1  
 ■ 子乗せ後部席に荷物掛け ■ 過積載 ■ 脇見運転  
 ■ その他

調査期間 5/1～31

\* 1 比率内訳: 上り坂23・下り坂2

### 違反運転行為(歩道上)



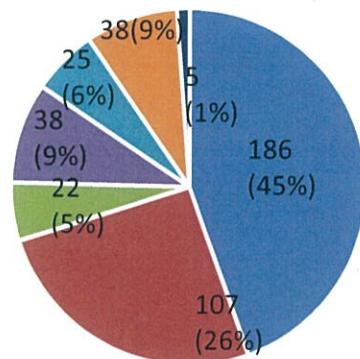
計 168件

■ 片手運転 \* 1 ■ ジグザグ運転 ■ スピード出し過ぎ

調査期間 5/1~31

\* 1 内11件 携帯電話を使用中の運転

### 危険運転行為(歩道上)

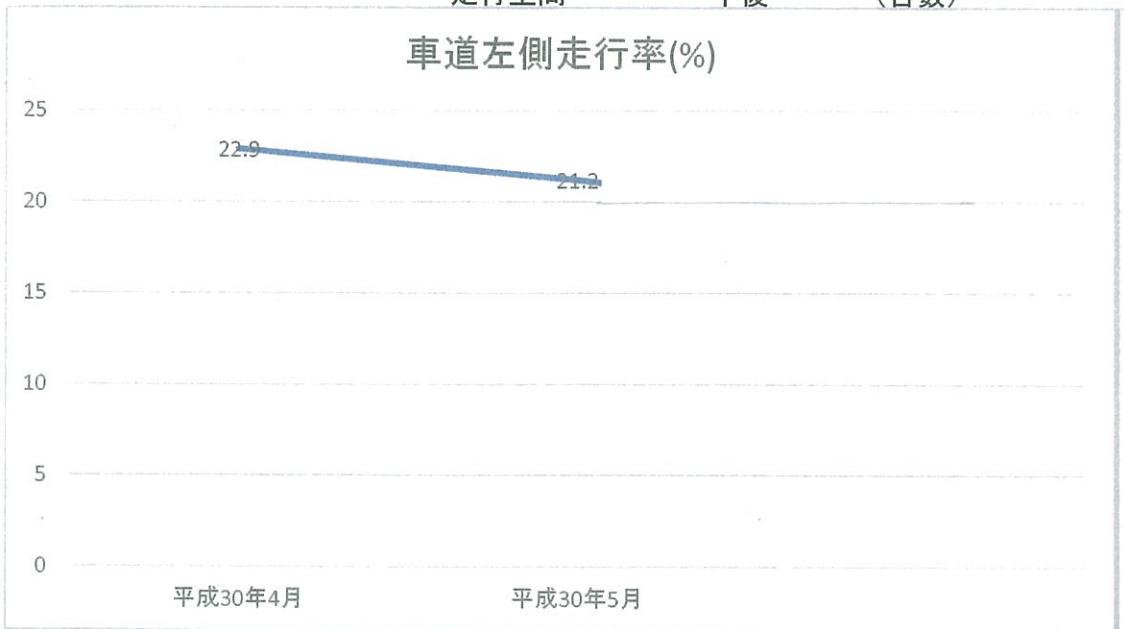
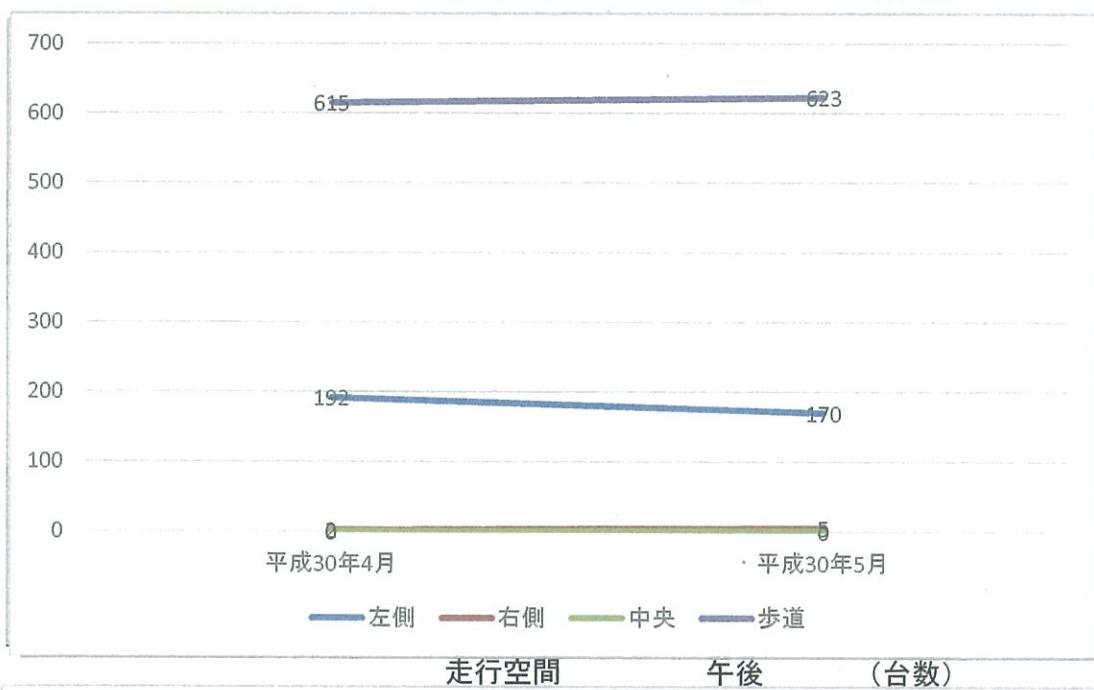
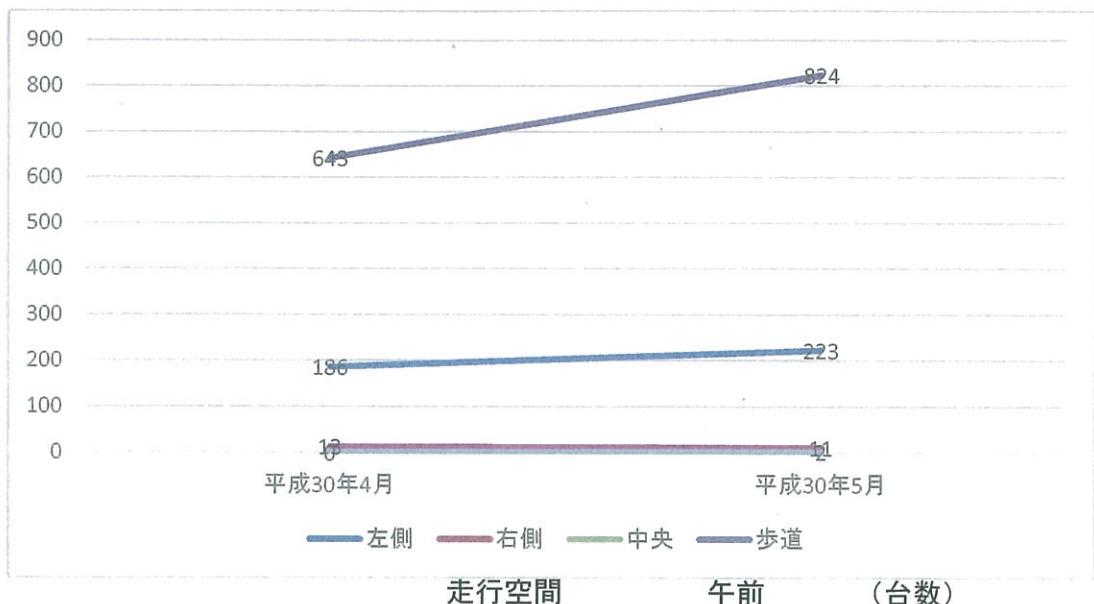


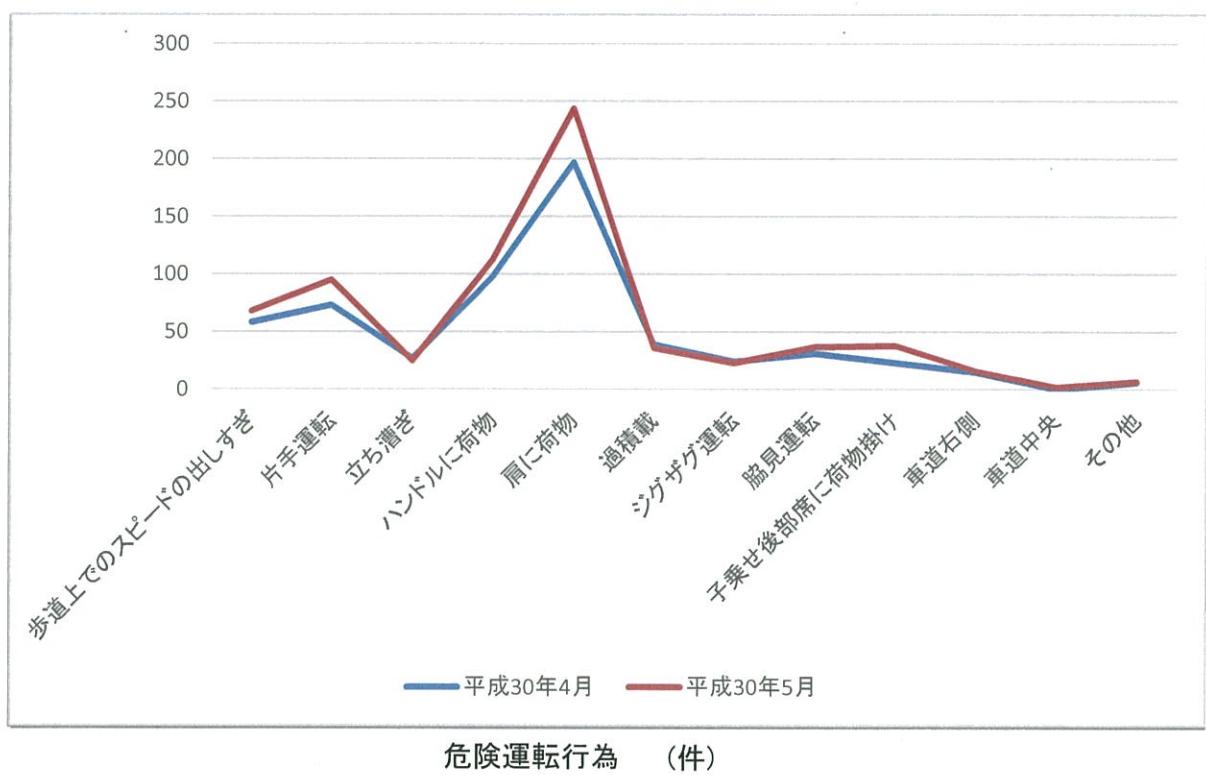
計 418件

■ 肩に荷物 ■ ハンドルに荷物 ■ 立ち漕ぎ \* 1  
■ 子乗せ後部席に荷物 ■ 過積載 ■ 脇見運転  
■ その他

調査期間 5/1~31

\* 1 比率内訳: 上り坂22・下り坂0





## 自転車利用実態定点調査報告（B 地点）

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の参考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成30年5月25日

[午前]9:00～10:00 / [午後]14:00～15:00

**調査場所** • 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点（首都高速目黒線直下）から70m程の上り坂）

**概 要** • 調査対象（車道線：目黒通り上り4車線及び歩道：幅員3.1m  
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり]）

調査対象外（反対側上り歩道）



上 り 線 車 道	歩道		← }      対象外 対 象 エ リ ア	
	←直進・右折レーン			
	←直進レーン			
	←左折レーン			
	←左折レーン			
	歩道	↑		
白金幼稚園				

## 調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車走行空間調査(車道、歩道)				
項目	走行空間	歩道	周辺	危険運転行為
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

<調査票>

### [コメント]

- ◎走行空間においては、車道左側走行率は、12%であり、また、車道中央走行率は、20%であり、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の約7割を占めている。
- ◎危険運転行為(違反行為を含む)は、車道中央走行(19件)・過積載(9件)・肩に荷物(8件)・片手運転(6件)内2件は、携帯電話を使用しながらの運転)・脇見運転(3件)・立ち漕ぎ・ハンドルに荷物(各2件)の順となっている。

### 【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の 5/24)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

#### ・車道左側走行率

今回(11.7%)に対し、前回(15.4%)の8割の水準である。

なお、午前(12.5%)は、前回(17.6%)の7割の水準である。

また、午後(10.0%)は、前回(10.0%)と同様の水準である。

なお、午前の上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・13%)に対し、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・22%)の約 6 割の水準である。

また、午後の上り地点 (10%)に対し、下り地点 (28%)の約 4 割の水準である。

#### ・子乗せ自転車

今回(26%)は、前回(19%)の 1.4 倍の水準

上り地点(26%)に対し、下り地点(18%)の 1.4 倍の水準

なお、同自転車における同乗者あり(21%)の場合でのヘルメット着用率は、80%である。

今回(80%)は、前回(60%)の 1.3 倍の水準である。

さらに、ヘルメット着用率の上下線での比較として、上り地点(80%)に対し、下り地点(50%)の 1.6 倍の水準

#### ・電動自転車

今回(43%)は、前回(39%)の 1.1 倍の水準である。

上り地点(43%)に対し、下り地点(32%)の 1.3 倍の水準

・危険運転行為      上り地点の [車道中央走行・過積載・肩に荷物] に対し、下り地点では [肩に荷物・歩道上でのスピードの出しすぎ・過積載] であり共通項目は、肩に荷物・過積載の 2 件となっている。

(違反行為を含む)

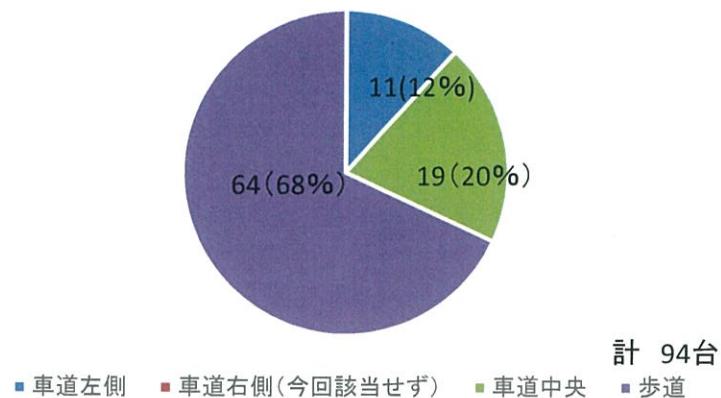
また、利用者全体(94 名)における危険運転行為(違反行為を含み 49 件)の 比率は、52%となっている。

上り地点(52%)に対し、下り地点(35%)の 1.5 倍の水準

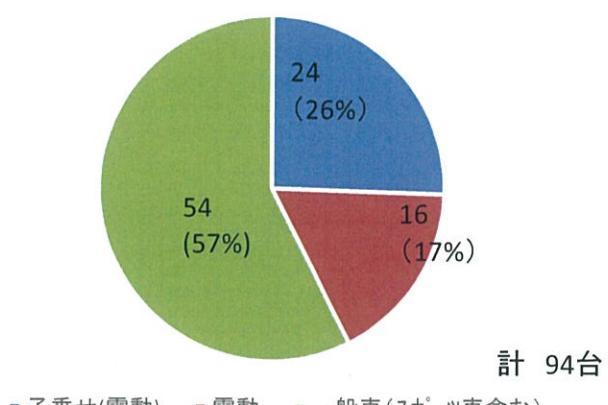
なお、中央走行者については、基本、電動自転車を使用していない。

さらに、車道中央走行が多かった理由も、前回以前から同様に、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から 道路中央を走行していたが、4 車線での中間(両隣が 2 車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。

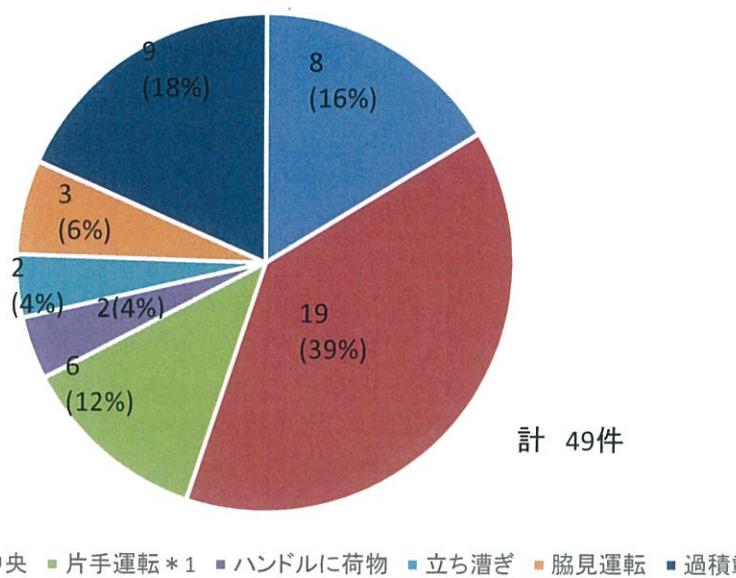
### 走行空間



### 車種



### 危険運転行為(違反行為含む)



### 車道左側走行率(%)

